

現場見て建設業関心を

帯広協会 2高校招き見学会

帯広建設業協会は18日、帯広工業高校と帯広農業高校の生徒を招いた現場見学会を開いた。国（帯広開発



道道の現場担当者から工事の説明を受ける帯広工業高の生徒（芽室）

建設部）が発注した中札内村の「札内川第2地区戸蔭第1号配水幹線用水路工事」と、道（十勝総合振興局）発注の芽室町の「2丁目通改良工事」（一般道道芽室東4条帯広線）を、各校40人ずつの計80人が見学した。

公共工事の現場を見ることが建設業界を知ってもらおうと、毎年、実施している。

芽室町の現場では建設協会（関坂典生）

社の社員が工事内容を紹介し、道路下に川などの水を通すコンクリートの囲いを造る「カルバート工（函渠ⅡかんきょⅡ工）」について説明。参加した帯広工業高環境土木科1年の山村拓未君（16）は「地域のためにする仕事と聞き、やってみたいと思った」と、初めての現場見学で建設業への関心を高めていた。

同行した同協会労務委員長の内信男・山内組社長（更別）は「建設現場では人が不足しており、協会としても新卒者を採用し、育てていこうとしている。見学会が、地元の建設業者に就職するきっかけになれば」と話していた。